■公共図書館での実践事例

わいわい文庫「日本昔話の旅」素材制作への取り組み

長野県 市立小諸図書館
竹内 ゆかり

はじめに

市立小諸図書館は、2019年度より伊藤忠記念財団のマルチメディアDAISY図書わいわい文庫「日本昔話の旅」に収録する昔話の素材を提供しています。

当時、伊藤忠記念財団がマルチメディアDAISY図書に収録する昔話の素材提供を全国の図書館に呼びかけていることを県立長野図書館経由で知り、事業目的はさることながら、私たちの地域の民話が、伊藤忠記念財団を通じて全国の子どもたちに届けられることにとても魅力を感じました。

日本各地にあるさまざまな民話や伝説は、人から人へ語りを通じて継承されてきたものですが、時代の流れとともに暮らしも変化して、昔話を語って聞かせてくれるお年寄りと子どもたちとの交流が少なくなり、日常の暮らしの中で子どもたちが昔話に触れる機会も少なくなってきていて、昔話を知らない子どもたちが増えているようで文化の継承という面でも不安を感じていました。

マルチメディアDAISY図書「日本昔話の旅」は、障害の有無にかかわらず誰でも利用可能で、子どもたちが昔話を楽しみながら地元への帰属意識や郷土愛を育む目的をもっている点に共感し、この事業への一助となれればと参加しました。

素材制作にあたって

最初の年は、初めての経験で、何もわからないところからのスタートでしたが、素材制作の工程を考えるうえで、紙芝居を参考にしました。

初めにもとになる脚本は、地域の民話や伝説をベースにして、図書館職員が再話をしています。

ストーリーは、聞いている子どもたちが情景をイメージしやすいように、また、小さな子どもたちにも楽しんでもらえるように、途中に会話をはさみ、会話にはなるべく方言を使ったりして、最後まであきずに聞いてもらえるように工夫をしています。

つぎに、場面ごとのシーン割りです。

絵にした時に前後のつながりが自然になるように考慮しながらイメージを

ラフスケッチします。このシーン割表は、作画作業をスムーズに進めていくうえで大変役に立っています。

地域を巻き込んで

絵と音訳は、ボランティアのみなさんを中心にお願いをしています。また、文化の継承という面では、なるべく若い世代の方たちにかかわってもらえるよう積極的に声かけをしています。

地元の高校生と一緒に

２年目の2020年度は、地元の高校生に昔話の素材制作（絵と音訳）への参加協力を呼びかけました。

わいわい文庫を利用する子どもたちに向けて、より年齢の近いお兄さん、お姉さんたちが描いてくれた絵や音訳に親しみを感じてもらいながら、昔話を楽しんでもらいたいという思いと、次世代の若者たちに、地元の昔話を扱った活動に一緒に取り組んでもらうことで、自分たちの故郷への関心や郷土愛をもってもらい、できれば将来的に、昔話の語り手になってもらいたいという願いも込めて企画をしました。

ところが、参加を募る段階で、コロナ禍の大変な時期と重なってしまいました。

感染予防対策が模索される中、社会活動の制限もあったため、当初予定していた学校への直接訪問は避けて、郵送での募集にしました。

ある程度想定はしていましたが、学校からの反応は薄く、「この時期に高校生を巻き込んだ活動はむずかしいのでは」とあきらめかけていた矢先に、岩村田高校（長野県佐久市）ボランティア班のみなさんが参加に名乗りを上げてくださいました。

まずは高校に訪問して、目的やスケジュールを説明しました。

初めに紙芝居を見てもらい、つぎに用意したシーン割表を見ながら昔話を聞いてもらって、絵のイメージを膨らませてもらいました。

作画作業は、７月から４か月間、顧問の先生を中心に進められました。

コロナ渦で、活動が制限される中でも、生徒さんたちは、夏休み登校をしたり、納得のいく絵が完成するまで何回も描き直しをしたりして、根気よく制作に取り組んでくれました。

また、音訳も本番まで何度も読み合わせをして、当日は、雑音に注意しながらそれぞれが上手に担当部分を演じ、スムーズに録音ができました。

この取り組みの様子は、信濃毎日新聞2020年11月９日の朝刊、「全力ブカツ」のコーナーで長野県内に紹介されました。その中で、音訳を担当した生徒さんは、「見てくれる人のことを考え、ゆっくり読むことを意識した」と語っていて、制作にかかわった一人ひとりがマルチメディアDAISY図書を利用する子どもたちに向けて「わかりやすく楽しめるものを作ろう」という意気込みで熱心に取り組んだ結果、とても温かみのある良い作品ができました。

今後の課題として

これまで、市立小諸図書館はマルチメディアDAISY図書「日本昔話の旅」へ収録する昔話の素材提供に協力してきましたが、これからは、マルチメディアDAISY図書の利用促進が課題です。

なかでも「日本昔話の旅」は、誰でも利用ができるマルチメディアDAISY図書であり、私たちが思いをもって取り組んだ郷土の昔話も収録されているのですが、図書館での利用が少ないのがとても残念です。

これまで、マルチメディアDAISY図書の利用促進のために、視聴覚資料コーナーの一角にあったマルチメディアDAISY図書コーナーを、子育て・教育関係の本が並ぶ書架に移設して、利用者の目に触れるところに案内を掲示しているのですが、現状の利用者数からはまだまだPR不足だと思っています。

　今後は、館内で実際の操作を体験してもらいながらの使い方講座の開催や、読み聞かせ研修会などの関係者が集まる場で紹介したりするなど、さらなるマルチメディアDAISY図書の利用促進に努めていきたいです。